

産婦人科学

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	1 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	3 人	(1 人)
診療助教	2 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人	
医員	3 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	4 人	(0 人)
研究生	5 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	8 人	
合計	32 人	

2 教員の異動状況

金山 尚裕（教授）（H11.11.1～現職）
 杉原 一廣（准教授）（H19.3.1～19.3.31 助教授；H19.4.1～現職）
 伊東 宏晃（病院教授）（H20.7.1～H21.3.31 講師；H21.4.1～H22.12.31 准教授；H23.1.1～現職）
 宮部 勇樹（助教）（H17.7.1～19.3.31 助手；H19.4.1～現職）
 村上 浩雄（助教）（H22.4.1～現職）
 田村 直顕（助教）（H22.4.1～現職）
 鈴木 一有（講師）（H19.6.1～H21.9.30 助教；H21.10.1～現職）
 中村 友紀（診療助教）（H20.10.1～H26.3.31 退職）
 内田 季之（講師）（H21.6.1～H23.4.30 助教；H23.5.1～現職）
 谷口千津子（特任助教）（H22.1.1～現職）
 古田 直美（特任助教）（H23.12.1～現職）
 望月亜矢子（診療助教）（H25.4.1～H26.3.31 退職）
 柴田 俊章（助教）（H24.4.1～ 現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度
--	----------

(1) 原著論文数 (うち邦文のもの)	12 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	20.94	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	2 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	20 編	(20 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	7 編	(6 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kohmura Y K, Kanyama N, Muramatsu K, Tamura N, Yaguchi C, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Aoe S, Sasaki T, Suganami T, Ogawa Y, Itoh H: Association between body weight at weaning and remodeling in the subcutaneous adipose tissue of obese adult mice with undernourishment in utero. Reprod Sci. 20(7): 813-827, 2013.
2. Yamazaki K, Suzuki K, Itoh H, Muramatsu K, Nagahashi K, Tamura N, Uchida T, Sugihara K, Maeda H, Kanayama N: Cerebral oxygen saturation evaluated by near-infrared time-resolved spectroscopy (TRS) in pregnant women during caesarean section – a promising new method of maternal monitoring. Clin Physiol Funct I. 33(2): 109-116, 2013.
3. Furuta N, Yaguchi C, Itoh H, Kanayama N: Immunohistochemical detection of meconium in the fetal lung: report of autopsied cases. Arch Gynecol Obstet. 288(5): 967-969, 2013.
4. Sugihara K, Shibata TK, Takata K, Kimura T, Kanayama N, Williams R, Hatakeyama S, Akama TO, Kuo CW, Khoo KH, Fukuda MN: Attenuation of fibroblast growth factor signaling by poly-N-acetyllactosamine type glycans. FEBS Lett. 587(19): 3195-3201, 2013.
5. Muramatsu-Kato K, Itoh H, Kobayashi-Kohmura Y, Murakami H, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Kanayama N, Tsuchiya KJ, Takei N; Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study Team: Comparison between placental gene expression of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenases and infantile growth at 10 months of age. J Obstet Gynaecol Res. 40(2): 465-72, 2014.

インパクトファクターの小計

[9.02]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Kubota K, Itoh H, Tasaka M, Naito H, Fukuoka Y, Muramatsu Kato K, Kohmura YK, Sugihara K, Kanayama N; Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study Team: Changes of maternal dietary intake,

bodyweight and fetal growth throughout pregnancy in pregnant Japanese women. J Obstet Gynaecol Res. 39(9): 1383-90, 2013.

インパクトファクターの小計 [0.84]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ozawa H, Asahina T, Murakami H, Yaguchi C, Kohmura Y, Kohno E, Hirano T, Horiuchi K, Tamura N, Sugihara K, Ooi H, Kanayama N: Zinc coproporphyrin I derived from meconium has an antitumor effect associated with singlet oxygen generation. Fetal Diagn Ther. 33(2): 90-97, 2013.
2. Masuzaki H, Unno N, Kanayama N, Ikeda T, Minakami H, Murakoshi T, Nakata M, Ishiwata I, Itoh H, Yoshida A: Annual report of Subcommittee for Examination of Causes of Maternal Death and their Prevention in Perinatology Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2013. J Obstet Gynaecol Res. 40(2): 336-337, 2014.
3. Shiozaki A, Yoneda S, Nakabayashi M, Takeda Y, Takeda S, Sugimura M, Yoshida K, Tajima A, Manabe M, Akagi K, Nakagawa S, Tada K, Imafuku N, Ogawa M, Mizunoe T, Kanayama N, Itoh H, Minoura S, Ogino M, Saito S: Multiple pregnancy, short cervix, part-time worker, steroid use, low educational level and male fetus are risk factors for preterm birth in Japan: a multicenter, prospective study. J Obstet Gynaecol Res. 40(1): 53-61, 2014.
4. Suzuki-Anekoji M, Suzuki A, Wu SW, Angata K, Murai KK, Sugihara K, Akama TO, Khoo KH, Nakayama J, Fukuda MN, Fukuda M: Regulation of steroid hormones by HNK-1 Chst10 in vivo in the mouse. J Biol Chem. 288(7): 5007-5016, 2013.
5. Sato Y, Nakanishi T, Chiba T, Yokotani K, Ishinaga K, Takimoto H, Itoh H, Umegaki K: Prevalence of inappropriate dietary supplement use among pregnant women in Japan. Asia Pac J Clin Nutr. 22(1):83-89, 2013.
6. Sekii K, Itoh H, Ogata T, Iwashima S: Possible contribution of fetal size and gestational age to myocardial tissue Doppler velocities in preterm fetuses. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 167:121, 2013.

インパクトファクターの小計 [11.08]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Hatakeyama S, Shibata TK, Tobisawa Y, Ohyama C, Sugihara K, Fukuda MN: Tumor targeting by a carbohydrate ligand-mimicking Peptide. Methods Mol. Biol. 1022: 369-386, 2013.

2. Fukuda MN and Sugihara K: TRO (trophinin). Atlas Genet Cytogenet Oncol Haematol. 18(3):189-193,2014.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 金山尚裕: DOHaD アップデート—胎児期から乳児期までの環境と成人期の健康・疾患—産科と婦人科 80(5): 9, 2013.
2. 伊東宏晃: 7. 心疾患・高血圧と DOHaD 産科と婦人科 80(5): 47-52, 2013. 診断と治療社
3. 伊東宏晃: 次世代の健康は妊婦の食生活から 食品加工と包装技術ジャパンフードサイエンス 52(2): 9, 2013.
4. 伊東宏晃: 早剥の管理 —IUFD の取り扱い: 浜松医科大学附属病院周産母子センターの方針—／特集: 常位胎盤早期剥離の病態と管理 周産期医学 43(4): 497-500, 2013.
5. 村松慧子, 伊東宏晃, 金山尚裕: 肝疾患 (NAFLD, NASH) と DOHaD 産科と婦人科 80(5): 58-62, 2013.
6. 金山尚裕: 羊水塞栓症 Amniotic Fluid Embolism 日本産科婦人科学会雑誌 研修コーナー 65(5): N20-26, 2013.
7. 内田季之: 妊産婦と胎児環境における亜鉛の重要性と補充療法の有用性 亜鉛栄養治療 3(2): 8-13, 2013.
8. 内田季之: 亜鉛は足りてますか? 妊娠貧血と微量元素 静岡県母性衛生学会誌 3:73-75, 2013.
9. 金山尚裕: 産婦人科当直医マニュアル—慌てないための虎の巻Ⅲ 産科編 1 緊急対応を要する分娩時・分娩後疾患 羊水塞栓症 臨床婦人科産科 67(4): 108-111, 2013.
10. 金山尚裕: 座長のまとめ シンポジウム 1「産科出血の問題点を探る」 日本周産期新生児学会雑誌 49(1): 1, 2013.
11. 谷口千津子, 金山尚裕: イラストで見る産婦人科診療 第 18 回 胎盤—前編— 産科と婦人科 80(9): 1113-1120, 2013.
12. 金山尚裕: 胎児評価の新展開 産科と婦人科 80(9): 1, 2013.
13. 鈴木一有, 伊東宏晃, 金山尚裕: 13. 近赤外線分光法による胎盤酸素濃度測定 産科と婦人科 80(9): 1223-1227, 2013.
14. 金山尚裕: 新たな早産予防戦略 産科と婦人科 81(1): 1, 2013.
15. 金山尚裕: 症例から展開する周産期研究 日本周産期・新生児医学会雑誌 49(4): 1153-1156, 2013.
16. 伊東宏晃, 久保田君枝: 妊婦の栄養摂取と胎児発育 女性健康科学研究会誌 2(1): 21-24, 2013.
17. 村松慧子, 伊東宏晃: 1. 理学所見 身長・体重 ペリネイタルケア 2014 新春増刊 読み方がわかる! 説明できる! 産科の臨床検査ディクショナリー メディカ出版: 10-13, 2014.
18. 村松慧子, 伊東宏晃: 59. 胎児発育不全が疑われた ペリネイタルケア 2014 新春増刊 読み

- 方がわかる！説明できる！産科の臨床検査ディクショナリー メディカ出版: 268-271, 2014.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 住本和博, 金山尚裕：イラストで見る産婦人科診療 第 17 回 胎位・胎勢・侵入異常 産科と婦人科 80(8): 959-965, 2013.
 2. 住本和博, 金山尚裕：イラストで見る産婦人科診療 第 19 回 回旋異常 産科と婦人科 80(10): 1271-1277, 2013.

（４）著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 幸村友季子, 伊東宏晃：I. 産科疾患—A. 異常妊娠 15 胎児機能不全 産科婦人科疾患最新の治療 2013-2015 : 82-83, 2013. 南江堂
 2. 伊東宏晃：シェーグレン症候群 ホルモン療法実践マニュアル : 73-79, 2013. 「産科と婦人科」編集委員編 診断と治療社
 3. 伊東宏晃: DOHaD の概念／「妊娠と糖尿病」母児管理のエッセンス: 240-245, 2013. 難波光義, 杉山隆編 金芳堂
 4. 金山尚裕：I. 産科疾患—C. 異常分娩 14 羊水塞栓症 産科婦人科疾患最新の治療 2013-2015 : 131-132, 2013. 南江堂
 5. 金山尚裕：羊水塞栓 今日の治療指針 2014 : 1198-1199, 2014. 医学書院
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Fukuda MN, Sugihara K, Akama TO: Mannosidase, Alpha-Mannosidase IIx (MAN2A2). Handbook of Glycosyltransferases and Related Genes. Edited by Taniguchi N, Honke K, Fukuda M, Narimatsu H, Yamaguchi Y, Angata T. SpringerReference. 2014.
 2. 畠山真吾, 柴田俊章, 田村直顕, 飛澤悠葵, 米山徹, 杉原一廣, 大山力, 福田道子：腫瘍組織血管内皮細胞を標的とした前立腺癌化学療法の基礎研究 泌尿器外科（医学図書出版）26(8): 1203-1206, 2013.

（５）症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 望月優作, 佐藤洋, 佐野誠, 早乙女雅夫, 漆田毅, 加藤秀樹, 林秀晴, 伊東宏晃, 金山尚裕：産褥期に冠動脈解離による広範囲の急性心筋梗塞を発症した 1 例 心臓 45(10): 302-306, 2013.

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	5 件

知的資産の所得状況：

①発明名称：METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1-BINDING COMPOUNDS

平成 25 年 日本，米国，欧州，カナダ，シンガポール，香港へ移行中

出願番号： 特願 2012-546245 （日本）

US 13/515,930 （米国）

EP 10803326.7 （欧州）

CA 2784645 （カナダ）

SG 201204665 （シンガポール）

発明者： 杉原一廣，福田道子，金山尚裕

出願人： 国立大学法人浜松医科大学，米国サンフォードバーナム医学研究所

②発明名称：COMPOSITIONS AND METHODS FOR TARGETED ENDOMETRIOSIS TREATMENT

出願日： 平成 25 年 6 月 11 日

出願番号： US Provisional No.61833519

発明者： 杉原一廣，福田道子

出願人： 国立大学法人浜松医科大学，米国サンフォードバーナム医学研究所

状況： 米国仮出願中（JST 特許化支援を得て PCT 出願準備中）

③発明名称：精子活性化剤およびそれを用いた活性化方法

平成 25 年 JST の支援を受けて PCT 出願

出願番号： 特願 2012-206711

発明者： 杉原一廣，福田道子

出願人： 国立大学法人浜松医科大学

④発明名称：プラスミノゲンアクチベーターインヒビター-1 による流産、早産治療薬

出願日：平成 23 年 11 月 15 日

出願番号：特願 2011-249523

発明者：金山尚裕

国際出願日：平成 24 年 11 月 15 日

国際出願番号：PCT/JP2012/007348

出願状況：PCT 出願済み、米国、欧州、中国に移行手続き中

⑤発明名称：触診用近赤外酸素濃度センサ

出願日：平成 25 年 5 月 24 日

出願番号：特願 2013-109604

発明者：金山尚裕

国際出願日：平成 26 年 5 月 13 日

国際出願番号：PCT/JP2014/62677

出願状況：PCT 出願済み

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度
(1) 文部科学省科学研究費	11 件 (1,980 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	2 件 (250 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	1 件 (7 万円)
(4) 財団助成金	1 件 (200 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	13 件 (545 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- 金山尚裕 (代表者) 挑戦的萌芽研究 PAI-1 測定による常位胎盤早期剥離の予知、予防の開発 140 万円 (新規)
- 伊東宏晃 (代表者) 挑戦的萌芽研究 質量顕微鏡法によるヒト胎盤絨毛解析一病態特異的生体高分子マーカー同体を目指して 100 万円 (新規)
- 鈴木一有 (代表者) 基盤研究 (C) 近赤外線分光法による母体脳および胎盤の酸素動態モニタリングの臨床応用に向けた検討 140 万円 (新規)
- 古田直美 (代表者) 若手研究 (B) 抗コプロプロフィリン抗体を用いた羊水塞栓症の組織学診断および迅速診断法開発の検討 110 万円 (新規)
- 柴田俊章 (代表者) 研究活動スタート支援 卵巣癌腹膜転移に対するヒトモノクローナル抗体を用いたトランスレーショナルリサーチ 110 万円 (新規)
- 金山尚裕 (代表者) 基盤研究 (B) 羊水塞栓症の救命法と予知・予防の開発 360 万円 (継続)
- 伊東宏晃 (代表者) 基盤研究 (B) 胎児期低栄養と良好な授乳期発育が成人期の生活習慣病発症におよぼす影響の基礎的解析 390 万円 (継続)
- 杉原一廣 (代表者) 挑戦的萌芽研究 精子運動を亢進し受精率を改善する薬剤開発を目指したトランスレーショナル・リサーチ 90 万円 (継続)
- 内田季之 (代表者) 基盤研究 (C) 妊産婦と胎児環境における亜鉛の重要性と補充療法の有効性の検討 120 万円 (継続)
- 杉原一廣 (代表者) 基盤研究 (B) 腫瘍血管内皮を標的とする分子標的治療薬の開発 350 万円 (継続)
- 田村直顕 (代表者) 基盤研究 (C) 着床部位子宮内膜組織のヒト絨毛性ゴナドトロピンを介する細胞内情報伝達系の解明 70 万円 (継続)

(2) 厚生労働科学研究費

- 金山尚裕 (分担者) わが国の妊産婦死亡原因の主要疾患に関する研究 100 万円 (継続)

代表者 三重大学医学系研究科産科婦人科学 池田智明

金山尚裕（分担者） 母子感染の実態調査把握及び検査・治療に関する研究 150 万円（新規

代表者 東京大学医学部附属病院 藤井知行

（３）他政府機関による研究助成

金山尚裕（代表） 独立行政法人 科学技術振興機構（JST）研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） 指接着型の胎児パルスオキシメータの開発 7 万円（新規）

（４）財団助成金

金山尚裕（代表者） 羊水塞栓症の血清診断事業 財団法人日母日本産科婦人科おぎゃー献金 200 万円（継続）

（５）受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（１）特別講演・招待講演回数	0 件	19 件
（２）シンポジウム発表数	2 件	2 件
（３）学会座長回数	0 件	19 件
（４）学会開催回数	0 件	1 件
（５）学会役員等回数	0 件	41 件
（６）一般演題発表数	4 件	

（１）国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Misa Suzuki - Anekoji, Jiunn - Chern Yeh, Nonaka M, Shibata TK, Nakayama J, Tomoya O, Akama, Sugihara K, Fukuda M, Fukuda MN: Targeted drug delivery to brain tumor vasculature by carbohydrate mimetic peptide in mouse glioma model. The 2013 Annual Conference of the Society for Glycobiology. November 17-20 (Sunday-Wednesday) in St.Petersburg Florida, 2013.
2. Sugihara K, Shibata TK, Akama TO, Kuo C-W, Khoo K-H, Fukuda MN: Attenuation of fibroblast growth factor signaling by poly-N-acetylglucosamine type glycans implicated to human sperm motility. The 2013 Annual Conference of the Society for Glycobiology. November 17-20 (Sunday-Wednesday) in St.Petersburg Florida, 2013.

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

1. Itoh H: Developmental Origins of Obesity –Potential Problem in Japanese People- The 23rd Asia and Oceanic Congress of Obstetricians and Gynaecology Perinatal Research Laboratories, University of Wisconsin Madison, at Madison, Bangkok Thailand, October, 2013.
2. Nagahashi K, Iwaki T, Takanao K, Ozaki Y, Kanayama N, Umemura K, Urano T: Is the phenotype manifested by complete PAI-1 deficiency in human compatible to that in mouse? XIVth International workshop molecular & cellular biology of plasminogen activation, University of Notre Dame, USA, June, 2013.

ポスター発表

1. Kanayama N, Tamura N, Itoh H, Kashiwagi Y, Todo Y, Suzuki T, Yaguchi C: C1 esterase inhibitor activity in amniotic fluid embolism. 2014 SGI 61st Annual Scientific Meeting, Florence, Italy, March, 2014.
2. Yaguchi C, Suzuki T, Todo Y, Kashiwagi Y, Kanayama N: Analysis of placental pathology in infants admitted to a neonatal care unit. 2014 SGI 61st Annual Scientific Meeting, Florence, Italy, March, 2014.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

第 126 回関東連合産科婦人科学会 10 月 27 日 浜松

2) 学会における特別講演・招待講演

杉原一廣 ペプチド創薬：悪性固型腫瘍に対する Drug Delivery System (DDS) 協和発酵キリン(株)教育講演会 4 月 浜松

伊東宏晃 帝王切開における VTE 発症の予防 第 128 回近畿産科婦人科学会 6 月 大津

金山尚裕 症例から展開する周産期研究 第 49 回日本周産期・新生児医学会 7 月 横浜

杉原一廣 子宮頸がんの予防：ワクチンと検診 ワクチンフォーラム in 東濃 セラミックパーク美濃 7 月 多治見

杉原一廣 糖鎖を mimic するペプチド IF7 を用い固型腫瘍への特異的集積を特長とする抗悪性腫瘍薬 「糖鎖技術の創薬、診断薬開発への応用」セミナー 7 月 東京

伊東宏晃 周産期・新生児医療から学ぼう 生活習慣病発症リスクとその予防 浜松健康フォーラム 7 月 浜松

金山尚裕 血液凝固線溶と妊娠 第 8 回国立循環器病研究センター周産期サマーセミナー 8 月 大阪

伊東宏晃 セプラフィラム・クレキサン コアコンピタンスミーティング 9 月 東京

金山尚裕 産科（周産期医療）について 平成 25 年度民事実務研究会 9 月

金山尚裕 早産の予防 第 126 回関東連合産科婦人科学会 10 月 浜松

杉原一廣 子宮頸癌—ワクチンによる予防から広汎子宮全摘術まで— 第 126 回関東連合産科婦人科学会 10 月 浜松

杉原一廣 腫瘍血管表面特異マーカーアネキシン 1 を標的とする IF7 を用いた抗腫瘍薬

BioJapan 2013 World Business Forum バイオビジネスアワード受賞講演 10月 横浜

杉原一廣 子宮内膜症に対するペプチド治療薬 BioJapan 2013 World Business Forum
medU-net 11 機関合同アカデミック発表会 10月 横浜

伊東宏晃 我が国妊婦の食事摂取の問題点と児への長期的な影響についてー胎生期低栄養マウスモデルを用いた肥満発症リスクの解析ー 第35回東京成長ホルモン成長因子セミナー 11月 東京

杉原一廣 子宮内膜症の原因及び治療に関する討論 第5回 JAPAN ENDOMETRIOSIS FORUM 11月 大阪

金山尚裕 役立つ女性ホルモンの話 埼玉県浜松医科大学病診連携懇話会 11月 埼玉

金山尚裕 羊水塞栓症 平成25年度日本産婦人科医会山口県支部研修会 11月 山口

金山尚裕 羊水塞栓症と産科出血 福井県産婦人科医師連合第77回冬季臨床研修会 2月 福井

鈴木一有 胎盤の中、どうなっていますか？(近赤外線による評価) 第4回羽衣セミナー 2月 静岡

3) シンポジウム発表

伊東宏晃 胎生期の低栄養環境と成長後の肥満発症リスクーマウス動物モデルによる検討ー 第40回日本毒性学会 6月 千葉

古田直美 亜鉛コプロポルフィリンー1抗体を用いた卵膜中の胎便検出とその意義 第21回日本胎盤学会 10月 名古屋

4) 座長をした学会名

金山尚裕 日本産科婦人科学会第65回学術講演会 5月 札幌

伊東宏晃 日本産科婦人科学会第65回学術講演会 5月 札幌

金山尚裕 産婦人科学術講演会～マイルドケア講演会～ 5月 浜松

内田季之 第18回生殖医学フォーラム 5月 松本

伊東宏晃 第2回日本 DOHaD 研究会 6月 東京

金山尚裕 第125回関東連合産科婦人科学会 6月 東京

内田季之 第125回関東連合産科婦人科学会 6月 東京

金山尚裕 平成25年度春季静岡産科婦人科学会学術集会 6月 静岡

金山尚裕 第49回日本周産期・新生児医学会 7月 横浜

伊東宏晃 第49回日本周産期・新生児医学会 7月 横浜

金山尚裕 第36回日本母体胎児医学会 8月 宮崎

金山尚裕 第34回日本妊娠高血圧学会 10月 富山

伊東宏晃 第126回関東連合産科婦人科学会 10月 浜松

杉原一廣 第126回関東連合産科婦人科学会 10月 浜松

金山尚裕 第21回日本胎盤学会 10月 名古屋

伊東宏晃 第21回日本胎盤学会 10月 名古屋

内田季之 第31回周産期医療研究会 10月 東京

金山尚裕 第 58 回日本生殖医学会 11 月 神戸

金山尚裕 第 13 回東海不妊内分泌研究会 2 月 静岡

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

金山尚裕 日本産婦人科学会代議員

金山尚裕 日本胎盤学会理事

金山尚裕 日本妊娠高血圧学会理事

金山尚裕 関東連合産科婦人科学会理事

金山尚裕 日本栄養代謝学会理事

金山尚裕 日本周産期新生児学会理事

金山尚裕 日本産婦人科感染症学会理事

金山尚裕 日本生殖医学会代議員

金山尚裕 日本母性衛生学会評議員

金山尚裕 日本母体胎児学会幹事

金山尚裕 日本産婦人科新生児血液学会理事

金山尚裕 中部不妊学会評議員

金山尚裕 静岡産科婦人科学会長

金山尚裕 静岡県母性衛生学会常任理事

杉原一廣 日本婦人科腫瘍学会評議員

杉原一廣 日本胎盤学会評議員

杉原一廣 日本生殖医学会中部支部評議員

杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡県地方部会日産婦専門医制度委員会委員

杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員会委員

杉原一廣 静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会委員

杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員

杉原一廣 静岡 CTC(Cancer Therapy Conference) 世話人

杉原一廣 静岡サイコオンコロジー研究会世話人

杉原一廣 JOGR (The Journal of Obstetrics and Gynecology Research) 査読委員

杉原一廣 Kanto Journal of Obstetrics and Gynecology 査読委員

杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡地方部会誌 査読委員

杉原一廣 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医

杉原一廣 日本生殖医学会 生殖医療専門医

杉原一廣 日本がん治療認定医機構 認定医

杉原一廣 日本がん治療認定医機構 暫定教育医

杉原一廣 日本婦人科腫瘍学会専門医制度規則指定修練施設 指導責任者

杉原一廣 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構 施設責任者

杉原一廣 生殖専門医認定研修施設 指導責任者

伊東宏晃 日本周産期・新生児医学会 評議員

伊東宏晃 日本内分泌学会 代議員・評議員

伊東宏晃 日本心血管内分泌代謝学会 評議員
 伊東宏晃 日本妊娠高血圧学会 代議員・評議員
 伊東宏晃 日本胎盤学会 評議員
 伊東宏晃 静岡県産科婦人科学会 理事・学術部長・研修会実施委員会委員長
 伊東宏晃 静岡県母性衛生学会 理事
 伊東宏晃 東海肺塞栓症研究会 幹事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	4 件	0 件

（1）国内の英文雑誌等の編集

Kanayama N: Hypertension research in pregnancy 1(2), October 2013 Official journal of the Japan society for the study of Hypertension in pregnancy.

Itoh H: Journal of Developmental Origins of Health and Disease (ISSN: 2040-1744)

Itoh H: Journal of Obstetrics and Gynaecology Research (ISSN: 4993-0711)

Itoh H: Medical Biochemistry (ISSN 1027-0256)

（2）外国の学術雑誌の編集

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

内田季之 3 回 Journal of Obstetrics and Gynaecology Research (Japan)

内田季之 1 回 European Journal of Obstetrics & Gynecology and Reproductive Biology (Nederland)

谷口千津子 3 回 Journal of Obstetrics and Gynaecology Research (Japan)

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
（1）国際共同研究	4 件
（2）国内共同研究	2 件
（3）学内共同研究	0 件

（1）国際共同研究

1. 腫瘍血管内皮細胞を標的とするペプチドを用いた新規抗癌剤の開発

研究代表者：杉原一廣

共同研究機関： Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

論文： Sugihara K, et al. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 106(9): 3095-3100, 2009.

Sugihara K, et al. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 108(49):19587-92, 2011.

特許： Sugihara K, et al.

「METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1-BINDING COMPOUNDS」

特願 2012-546245

日、米、欧、カナダ、シンガポールへ移行済み

2. 子宮内膜症に対する分子標的治療薬の開発

研究代表者：杉原一廣

共同研究機関： Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)
Texas Biomedical Research Institute (USA)

特許：Sugihara K. et al.

COMPOSITIONS AND METHODS FOR TARGETED ENDOMETRIOSIS TREATMENT

出願日：平成25年6月11日

出願番号：US Provisional No.61833519

状況：米国仮出願中（JST特許化支援を得てPCT出願準備中）

3. 新規超早期診断法の開発

研究代表者：杉原一廣

共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)、国内：浜松ホトニクス(株)

4. 精子運動能と受精率を改善する薬剤の開発

研究代表者：杉原一廣

共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

特許：「精子活性化剤およびそれを用いた活性化方法」

精子活性化剤およびそれを用いた活性化方法

出願番号：特願2012-206711

状況：PCT出願

(2) 国内共同研究

1. 金山尚裕：胎児および子宮筋パルスオキシメーターの開発（静岡大学）

2. 杉原一廣：新規超早期診断法の開発（浜松ホトニクス(株)）

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	2 件

1. 金山尚裕：浜松医科大学サプリメント企画、販売（豊橋技術大学 TLO）

2. 杉原一廣：新規 PET 増感剤の開発（浜松ホトニクス(株)）

11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での授賞

1. 向 麻利：近赤外線時間分解分光法による分娩時の脳血流測定—特に陣痛間歇時と怒責時の脳血流量変化について— 第 126 回関東連合産科婦人科学会 優秀演題賞 10 月 浜松

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. 宮部勇樹：腹腔鏡で子宮全摘手術―浜松医大病院で実績― 平成 25 年 7 月 11 日 中日新聞
2. 宮部勇樹：良性子宮疾患 腹腔鏡での全摘 9 割以上可能に 平成 25 年 7 月 30 日 静岡新聞